



『もっと学びたくなる授業』をめざして

子どもたちの「もっと学びたい」姿を考えながら「心地いい」「うれしい」「楽しい」「もっとやりたい」と感じることでできる授業を行っています。今回は、各学部各課程の授業の様子を紹介します。

<小A課程・訪問教育> 図画工作『びりびり ひらひら やってみよう!』(1・2年生)

様々な紙素材をちぎる、丸める、貼るなどして形の変化や色の組み合わせの楽しさを感じながら、友達と共に好きな活動に取り組み、自由に表現する姿を目指して図画工作の授業を行いました。

児童自身が紙を破ったり、組み合わせたりしたときに「ぺたぺた、びりびり」などの音や感触を表す言葉を返すことで、紙材料の変化や色の組み合わせのおもしろさに気づき、更に自分から紙材料に関わろうとする意欲を引き出すことができました。

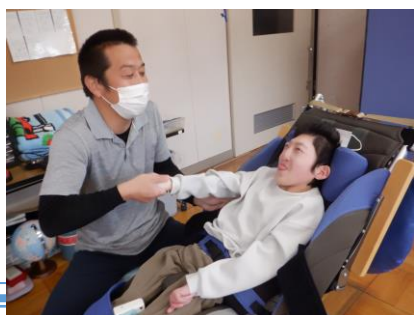
活動を繰り返すにつれ、好きな活動を見付け、自分で考えて握り方の強さを変えて破ってみたり、好きな紙を集めたりするなど、活動に夢中になって取り組んでいました。



<中高A課程> 自立活動『引っ張れ! 僕らの大冒険』

中学部・高等部A課程の自立活動では、自分で腕や指を動かして、ひもスイッチなどの教具を引っ張る姿や、外界の変化に気づき感じた気持ちを、表情や視線、身体の動きで表出する姿を目指して学習に取り組んでいます。

『引っ張れ! 僕らの大冒険』の授業の始めには、ふれっ手体操をして、手や腕の感覚をはっきりさせたり緩めたりします。ストーリーが進む中で、海の場面では、波に見立てたタフロンテープの感触や揺れを感じると、笑顔になって学習を楽しみました。そして、鈴付きのロープにつるしたヤシの実を取る活動では、繰り返しの中であることが分かり、自分から引っ張って取るできるようになりました。ヤシの実が落ちて「やったね!」と言葉を掛けられると、とても嬉しそうな表情をしていました。生徒が分かって取り組める、出来て楽しい授業を心掛けています。



《ふじこくフェスタ》

高等部には9種の作業班があり、働く意欲・喜びにつながる活動に取り組んでいます。12/5(火)~12(火)の富士市役所展示は初参加し、12/4(月)~8(金)の富士宮市役所展示は地域の特別支援学級と共に障害者週間の展示に参加しました。社会参加に向けてチームで協働・生徒一人一人の輝きを地域に発揮していくことを目的に『作業製品・活動紹介の展示』に積極的に取り組んでいます。



<小学部 B 課程>生活単元学習『静岡のいいね！大発見！』（6年生）

6年生は修学旅行に関する単元の中で、静岡県の特産品である「お茶」について学習しました。お茶の特徴や良さに気付く姿、学んだことを伝えようとする姿を目指して生活単元学習の授業を行いました。

初めはお茶の味が苦手な児童もいましたが、自分の好きな濃さのお茶を知ること、お茶を飲みたいと感じる児童が増えました。JAのお茶講座では、おいしいお茶の淹れ方を学びました。五感を使ってお茶について知る体験的な活動や、タブレット端末やインタビューによる調べ学習を通し、お茶への興味関心を深めてきました。修学旅行当日は「日本平お茶会館」にて茶もみ体験も行いました。学習を通して、自分達で急須を使って緑茶を淹れて振る舞う姿、お茶の良さ、キーワードを伝える姿などが見られるようになりました。お茶の魅力をたくさん発見できたことで、児童達にとってお茶がより身近な存在になりました。



<中学部 B 課程>生活単元学習『めざせ！はたらく中学生』（1年生）

学年目標「なんでもチャレンジ！はたらく中学生」の下、何事にもチャレンジしてかっこよく「はたらく中学生」を目指し、挨拶、身だしなみ、意欲、継続して取り組む、集中する、ルールを守るなど、働く上で大切な基礎的な力を身に付けるため、1年生が目指す働く人とは何かを考え、調べ、見出していく学習に取り組みました。校内で働く人を探し、働く時に大切にしていることをインタビューしてまとめました。また、キャリア支援課の協力により、工場で働く先輩の姿を実際に見て、働く姿はかっこいいことに気づき、作業学習や係活動だけでなく、自分ができることを見つけて、意欲的に仕事をするようになりました。

今自分たちができることを着実にやり、みんなのために力が発揮できるよう、みんなで作成した『はたらくひと7か条』を意識して、今後も様々な学習と結び付けて取り組んでいきます。



<高等部 B 課程>作業学習 クラフト班

「販売→完売→万歳！！～自分たちで進める作業学習～」

高等部クラフト班では紙バンドを使った製品作りに取り組んでいます。今回の単元では、完売する製品を目指して製品開発をしてきた生徒たちが、質の良い製品をたくさん作るために工程の工夫をしたり、仲間と考えたりしながら製作に取り組むことを目標にしています。

売れるための製品作りについての話し合いを重ねる中で、担当する工程に責任をもち、たくさんのお客さんにより製品を届けるためにと、自分からどんどん作業を進める姿が増えていきました。また、良品のポイントを皆で話し合い、「曲がっていない、隙間がない、汚れてない ないないないは、いい製品」を合言葉に製作に取り組みました。今回の授業では、仲間と製品の検品をし、互いにアドバイスし合っ、よりよい製品を共に作ろうと取り組みました。授業の振り返り場面では、「隙間なくきれいにできた」「前よりたくさん作れるようになった」と胸を張って話していました。「できた！」という経験から「もっとたくさん作りたい！」と意欲がより高まっています。

